

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：22702

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21592817

研究課題名（和文）

熟練開業助産師の卓越した「わざ」の伝承

研究課題名（英文）

Tradition of the excellent skills and art of expert independent midwives

研究代表者

村上 明美（MURAKAMI AKEMI）

神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 教授

研究者番号：10279903

研究成果の概要（和文）：

本研究は、熟練開業助産師が後進の助産師に対して行っている卓越した「わざ」の伝承を、D. Leonard & W. Swap（2005）が提唱するディープスマート理論に基づいて分析し、「わざ」伝承の緒相を明らかにすることを目的とした。

対象は、熟練開業助産師 3 名と、そこに雇用されている後進の助産師 7 名であった。対象者にそれぞれ 2 回の半構成的面接を行い、面接の様子をフィールドノーツに記載するとともに、対象の許可を得てレコーダーに録音し、逐語録を作成した。分析は、逐語録とフィールドノーツの内容を、まず、ディープスマート理論の構築・形成・選別・移転の段階に沿って分類し、コーディングを行い、「わざ」伝承の視点から内容分析を行った。

その結果、以下のようなストーリーラインが描写できた。

後進の助産師は「熟練開業助産師に惚れ込む」ことから助産所の一員となって、熟練開業助産師と場や感覚を共有するようになっていた。さらに、後進の助産師は「熟練開業助産師から現場を任される」ことや、たとえ熟練開業助産師が不在であっても「熟練開業助産師が存在しているかのように実践できる」と感じることで、熟練開業助産師の卓越した「わざ」が自身に伝承されていると実感していた。

卓越した「わざ」は、HOW TO としては伝えられておらず、特に、出産の場においては、後進の助産師が「産婦の産もうとする力」と「胎児の生まれようとする力」に熟練開業助産師とともに徹底して寄り添うことを通して、熟練開業助産師の「信念」「責任」「真摯な姿勢」「判断の見事さ」等の卓越性を共有していた。

さらに、出産終了後に後進の助産師が熟練開業助産師とともに「出産を振り返る」ことは、相互に共感的な気づきが生じ、熟練開業助産師の卓越した「わざ」が後進の助産師に伝承される場となっていた。

研究成果の概要（英文）：

This research analyzed the tradition of excellent "skills and art" which some expert independent midwives were performing to some junior midwives based on the deep smart theory which D. Leonard & W. Swap (2005) advocates, and aimed at clarifying

the clue phase of tradition of "skills and art".

Participants were three expert independent midwives and seven junior midwives currently employed. Each participant received the interview twice. The situations of the interviews were recorded on field notes. The interviews were recorded after obtaining their permission and were carried out to literal records. Analysis was conducted as follows. First, the contents of literal records and field notes were classified in accordance with four stages; construction, formation, sorting, and moving of deep smart theory. Next, they coded and conducted content analysis viewpoint of tradition of "skills and art".

As a result, the following story lines have been described.

Since a junior midwife was fascinated with the expert independent midwife, the junior midwife became a member of the maternity home. So she shared a place and feeling with the expert independent midwife. Furthermore, junior midwife realized tradition of the skills and art form the expert independent midwife, when the spot was left to her from the expert independent midwife or she could practice as if the expert independent midwife was exist there, even if the expert independent midwife was absent.

Excellent "skills and art" was not handed down as visible HOW TO.

In particular, at the place of childbirth, the junior midwife was sharing excellence, such as "belief", "responsibility", "earnest posture" and "wonderfulness of judgment", while a junior midwife nestled up to [the power which a woman bears a child herself] and [the power which a baby is born himself] with expert independent midwife.

That the junior midwife and the expert independent midwife reflected on childbirth together after the delivery produced awareness mutually. It was the place where excellent skills and art were handed on from the expert independent midwife to the junior midwife.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1300000	390000	1690000
2010 年度	1100000	330000	1430000
2011 年度	1100000	330000	1430000
年度			
年度			
総計	3500000	1050000	4550000

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：臨床看護学・助産学

キーワード：開業助産師・熟練・わざ・伝承

1. 研究開始当初の背景

ディープスマートは、「その人の直接の経

験に立脚し、暗黙の知識に基づく洞察を生み出し、その人の信念と社会的影響により形作

られる強力な専門知識である (D. Leonard & W. Swap :2005)」と定義される。D. Leonard & W. Swap (2005) は、アメリカ企業の改革や知識移転の研究に携わる中で、経験、専門知識、暗黙知の果たす役割の大きさに気づき、経験知を組織内で伝えていくために、積極的にディープスマート研究に取り組んでいる。

ハイテク時代を享受したわが国の産業界でも、熟練労働者の高度な技術・技能は、研究開発や技術開発に不可欠であることが再認識されている。しかしながら、熟練労働者の高齢化や生産拠点の海外流出などを理由に、国内での高度な技術・技能伝承は深刻な状況を迎えている(森：2005)。いくつかの国内企業においては、団塊の世代が一斉に退職を迎える 2007 年問題に対応するために、熟練労働者の高度な技術・技能を伝承するためのシステム開発やモデル開発等の研究が推進されている(柴田：2007, 山本：2004)。

ところで、わが国の妊娠や出産の現状に着目すると、産科医師不足の問題から生じる産科診療の閉鎖や縮小、産科医師の過剰労働、出産難民の増加、緊急対応が必要な妊婦の搬送先の受け入れ拒否などが大きな社会問題となり、わが国の周産期医療は危機的状況にある(海野：2007)。そのような中で、助産師は、独自に定期妊婦健診の実施や正常分娩の取り扱いが法的に認められている専門職であり、不足する産科医師とパートナーシップを築き、現状を改善していく人材として社会的に大きな期待を向けられている(厚生労働省：2007)。

今後、病院勤務助産師が院内で自立した助産師活動を行っていくためには、正常な妊娠分娩経過の妊産婦支援を自立して行っている開業助産師の活動を参考にすべきであろう。なぜならば、開業助産師は医療介入を行えないという状況下で、自らのディープスマ

ートに基づく高度な技術・技能を駆使しながら、妊産婦の有する生理的能力を発揮させて経過を正常に導き、的確にリスクマネジメントを行い、妊産婦が主体的に快適なマタニティライフが過ごせるよう支援しているからである。

筆者はこれまで、開業助産師の卓越した「わざ」の解明に取り組み(村上：1998, 2006, 2008)、「わざ」の機能や構造を明らかにしたり、熟練の分娩介助技術方法や直感的アセスメントの卓越性に接近してきた。しかし、それらは個々の開業助産師が有する技術・技能の卓越性の一部を示すものであり、「わざ」伝承という視点では捉えられていない。昨今では、開業助産師の高齢化が進んでおり、また、現在のような危機的な周産期医療状況においては、早急に、熟練開業助産師のディープスマートに基づく高度な技術・技能の伝承について明らかにする必要があると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、熟練開業助産師が後進の助産師に対して行っている卓越した「わざ」の伝承を、ディープスマート理論に基づいて分析し、「わざ」伝承の緒相を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究では、D. Leonard & W. Swap (2005) が提唱するディープスマート理論に基づき、ディープスマートの①構築、②形成、③選別、④移転の4段階から、熟練開業助産師が後進の助産師に対して行っている「わざ」伝承の諸相を捉える。

1) 対象

対象は、熟練開業助産師3名と、そこに雇用されている後進の助産師7名である。

2) データ収集

データ収集は、対象者にそれぞれ2回の面接（面接回数は延べ20回）により行った。

面接は、ディープスマートの①構築、②形成、③選別、④移転の4段階に沿って半構成面接を実施し、面接の様子をフィールドノートに記載するとともに、対象の許可を得てレコーダーに録音した。録音内容から速やかに逐語録を作成した。

3) 分析方法

面接内容は速やかに逐語録を作成し、逐語録とフィールドノートの内容を①構築、②形成、③選別、④移転の段階に沿って分類し、コーディングした。4分類された内容を、「わざ」伝承の視点からさらに詳しく内容分析を行い、概念構築を試みた。

4) 信頼性・妥当性の確保

分析の信頼性・妥当性を維持するために、分析は複数の研究者で常に合意を得ながらすすめる、助産学を専門とする研究者2名からのスーパービジョンを得た。適宜、また、定期的に分析を行った。

4. 研究成果

熟練開業助産師が後進の助産師に対して行っている卓越した「わざ」の伝承について、以下のことが明らかになった。

熟練開業助産師は、後進の助産師を仲間として受け入れ、参加する「場」を提供し、自己の実践のすべてを後進の助産師に見せていた。後進の助産師は、これまでの助産師経験を踏まえて、自己の興味や関心にあわせて深く学んでいた。

熟練開業助産師の後進の助産師に対する育て方には、以下の二つのパターンが確認された。一つは、後進の助産師の得意分野の能力から伸ばす、すなわち、ある分野の専門的能力を開花させる育て方であった。もう一つは、始めから後進の助産師を将来の開業助産師

として育てる、すなわち、開業助産師に必要な能力全体を徐々にふくらませる育て方であった。

一方、後進の助産師の熟練開業助産師への師事は、熟練開業助産師に「惚れ込む」ことから始まっていた。後進の助産師自身が熟練開業助産師に癒された自己の経験から、良いところも悪いところも“ぜんぶ好き”という惚れ込み方と、周囲からの信頼や評判を聞いて熟練開業助産師の素晴らしさを確信し“どんなに厳しくても腹をくくって先生（熟練開業助産師）のようになろう”という惚れ込み方であった。

熟練開業助産師が伝えているものは、開業助産師としての「信念や責任」であり、形のある「わざ」や、目に見える「わざ」としては伝えていなかった。

一方、後進の助産師が熟練開業助産師から学んでいるものは、妊産婦に対峙する「真摯な姿勢や判断の見事さ」であり、「わざ」をHOW TOとして学んでいるわけではなかった。

結果を踏まえ、以下のようなストーリーラインを描写した。

後進の助産師は「熟練開業助産師に惚れ込む」ことから助産所の一員となって、熟練開業助産師と場や感覚を共有するようになっていた。さらに、後進の助産師は「熟練開業助産師から現場を任される」ことや、たとえ熟練開業助産師が不在であっても「熟練開業助産師が存在しているかのように実践できる」と感じることで、熟練開業助産師の卓越した「わざ」が自身に伝承されていると実感していた。

卓越した「わざ」は、目に見えるHOW TOとして伝承されてはいなかった。出産の場においては「産婦の産もうとする力」と「胎児の生まれようとする力」に徹底して寄り添う

ことを通して、熟練開業助産師や後進の助産師に共有する感覚を生じさせていた。また、卓越した「わざ」は、産婦や胎児、出産に立ち会う家族をも包含した場において共同的に表出されていた。さらに、出産終了後に後進の助産師が熟練開業助産師とともに「出産を振り返る」ことで相互に共感的気づきが生じ、熟練開業助産師の卓越した「わざ」が後進の助産師に伝承される場となっていた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 1 件)

- ① 村上明美・喜多里己、開業助産師のわざーどのように伝承していくべきかー、第 25 回日本助産学会学術集会、2011. 3. 6、名古屋.

[図書] (計 1 件)

- ① 村上明美、生田久美子・北村勝朗編著、わざ言語 感覚の共有を通しての「学び」へ 第5章「生命誕生の場」における感覚の共有、慶應義塾大学出版会、2011、335-361.

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

[その他]

- ① 講演：村上明美、わざを磨く：熟練助産師のわざの伝承、助産師の原点を考える 一つくろう仲間, のぼそうスキル, きずこう・きづこう専門性一、神奈川県助産師

会研修会、2011. 11. 4、ウィリング上大岡.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村上 明美 (MURAKAMI AKEMI)
神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・教授
研究者番号：10279903

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

喜多 里己 (KITA SATOMI)
日本赤十字看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：303672213

丸山 彩香 (MARUYAMA AYAKA)
神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・助教
研究者番号：40535382